

## 第1部 文明と地域世界の形成

### 1 西アジア世界・地中海世界の形成

#### 1 オリエント文明の形成（教科書 P. 20～24）

##### ① メソポタミア [p. 20]

（ティグリス川とユーフラテス川のあいだ）

・ [ ] の都市国家

→都市は城壁で囲まれ，中心部に神殿がたつ

王は最高の神官

[ ]，青銅器，[ ]，暦，六十進法，[ ]などを生みだす

・前 2400 年ごろまでにセム語系の諸族が定住

→シュメール人を征服

・ [ ]

→ [ ] がメソポタミアを統一（前 18 世紀）

シュメール人の文化を継承し，[ ] を制定

↓

同害報復（復讐）が原則

身分により刑罰に差

##### ② ピラミッドの国 [p. 21]

・「ナイル川の賜物」

→定期的氾濫を利用した [ ] で農業地帯に

・ノモス（小国家）の成立

→治水や灌漑が進み，集落が統合される

前 3000 年ごろ ノモス統一

→エジプト王国が生まれる

・エジプト王国

王（[ ]）…太陽神（ラー）の化身

王の権力の象徴… [ ] を建設

[ ] にそなえて「死者の書」

[ ] を考案し、パピルス紙を用いる

[ ] をつくり、測地術を発達させる

### ③ 馬と鉄器を使う民族 [p. 22]

・インド・ヨーロッパ語系遊牧民

前 3000 年～前 2000 年にヨーロッパからインド、オリエントに移動

[ ] はアナトリアに王国を建てる

・ヒッタイト人

[ ] を使い、古バビロニア王国を滅ぼす

はじめて [ ] を使用（製鉄技術は独占）

鉄製の武器と戦車

→ [ ] を高め、戦争の方法を一変

### ④ 商業の民とユダヤ教 [p. 22]

・前 12 世紀ごろ～

シリア・パレスティナでセム語系諸民族が活躍

・ [ ]

地中海貿易で活躍→北アフリカ（カルタゴ）やイベリア半島に植民市を建設

[ ] の [ ] をつくる

→ヨーロッパ各地の文字の原型

・ [ ]

シリアのダマスカスを中心に通商に活躍

アラム語→オリエントの商業用語となる

アラム文字→アラビア文字などの原型となる

・ [ ]（イスラエル人）

移動生活ののち、パレスティナに定住

エルサレムを都とする王国を建設

新バビロニアによる「バビロン捕囚」などの苦難を経験し、 [ ] を形成

・ユダヤ教→キリスト教やイスラームの成立に影響

唯一神 [ ] を信仰

メシア（救世主）の出現を信じる〔 〕  
経典は『〔 〕（聖書）』

#### ⑤ 統一帝国の出現 [p. 23]

・〔 〕

全オリエントを統一する〔 〕を樹立

征服地（州）での圧政に服属民が反抗

→前7世紀末に滅亡

・4王国分立の時代

アッシリア滅亡後のオリエント

→エジプト、リディア、新バビロニア、メディアに分裂

→〔 〕が再統一（前550年）

・アケメネス朝

〔 〕が領土を拡大し、国の基礎をかためる

→全土を20余の州にわけ、サトラップ（総督）をおく

「王の目」「王の耳」（監察官）を巡回させる

道路をつくり、〔 〕を整備

被征服民の宗教や慣習を尊重

〔 〕（拝火教）を信仰

ペルシア戦争にやぶれ、アレクサンドロス大王の遠征軍により滅亡（前330年）

・ゾロアスター教（拝火教）

世界は光明神（善）と暗黒神（悪）の戦い

善の神が勝ち、「〔 〕」を行う

→ユダヤ教・キリスト教・イスラームに影響